

# 平成28年度 学校評価シート

学校名： 和歌山県立串本古座高等学校串本校舎 学校長名： 愛 須 貴 志

目指す学校像 育てたい生徒像	豊かな心と確かな学力を身につけ、個性の伸長をはかることで、地域や社会の形成者として貢献できる人間を育成する。
-------------------	--

本年度の重点目標	1 基本的生活習慣の確立と基礎学力向上
	2 キャリア教育を中核とした指導の充実
	3 自主活動の活性化
	4 特色ある教育活動の充実

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。  
4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

達成度	A 十分に達成した (80%以上)
	B 概ね達成した (60%以上)
	C あまり十分でない (40%以上)
	D 不十分である (40%未満)

学校評価の結果と改善の方策の公表の方法  
育友会総会等を通じて保護者に結果を知らせるとともに、本校HPにおいても公表する。

自己評価					年度評価 ( 3 月 30 日 現在 )		
重点目標					評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策
1	学校全体としては生徒は落ち着いて学校生活を送ることができているように見受けられる。しかし、一部で服装・頭髪の乱れ、遅刻が多い生徒がおり、継続的に指導を行う必要がある。規律を守り規則正しい学校生活を送ることが、自分の将来に繋がることを生徒全体に意識付けしていきたい。	○身だしなみやマナーなど、学校生活において適切な言動がなされているか。 ○校則や社会規範を守ることがキャリア形成につながる意識が高まっているか。	・月1回の全校集会における身だしなみ指導及びマナー指導 ・1学年4月に制服の正しい着用について外部講師を招いてセミナーを実施 ・毎朝の校門指導における遅刻指導及び身だしなみ指導 ・毎昼の校門指導における無断外出防止指導 ・交通安全に係る講話とテストの実施 ・情報モラル、薬物乱用に係る講演会の実施 ・定期考査期間中の列マナー指導 ・毎月2回の交通指導	・頭髪・身だしなみ指導にかかる生徒数の減少及び規範意識の醸成 ・制服の正しい着こなしを1年生から意識の定着 ・遅刻生徒の減少 ・無断外出生徒の減少 ・交通安全における理解の向上 ・情報モラル、薬物乱用における正しい理解の向上 ・乗車マナー等守れているか ・情報モラル、薬物乱用に係る講演会の実施 ・警察及び地域交通指導員との連携をはかっているか。	○身だしなみ指導については、全体としては概ね良好であったが、一部の生徒に服装・頭髪の乱れがあり、繰り返し指導が必要であった。それらの生徒には個別に丁寧で粘り強い指導を行った。 ○例年に比べ特別指導の件数は大幅に減少したが、服装・携帯電話の使用での指導は例年並みであった。	B	○平素の指導を徹底し、教員間で共通意識をもって指導にあたることを課題とする。 ○教員一人ひとりが生徒とのコミュニケーションを図りながら粘り強く指導にあたることが不可欠であるとする。生徒指導部が全体指導を徹底するとともに、担任・学年主任との連携を十分にとり個別の生徒指導も徹底していきたい。
2	今年度になり、比較的落ち着いた雰囲気の中で整然と授業が行われている。生徒間の学力差は依然として大きく、基本的学力が著しく不足している特別な支援を要する生徒も存在する中でいかに個別に対応できめ細かな指導が徹底できるかが課題である。	○学力の二極化に対応していくか、また、主体的学習姿勢を涵養するための工夫ができていないか ○家庭での主体的に取り組む学習時間確保などの具体的方策が講じられているかどうか	・学習環境の整備 ・チャイムと同時の始業 ・年間最低一回の研究授業実施による授業力の向上と生徒を活動させるアクティブラーニングの取組 ・基礎力診断テストの実施とフィードバック ・生徒による授業評価の分析とその結果を反映した確かな学力が身につく各教科の具体的な取組	・学習環境が十分に整備されているか ・教員の授業開始に遅れはないか ・最低年一回の研究授業を実施できたか ・それに対する研究協議は実施できたか ・基礎力診断テストが実施し、教科と学年が連携できているか ・授業評価を実施し、その結果を各授業へ確実に反映できているか	○視覚教材を利用している学習環境整備が大幅に遅れている。チャイムと同時の始業も一部達成されていない。 ○年一回の研究授業は実施出来たが、フィードバックが不十分であった。また評価シートの利用も不徹底である。生徒を主体的に授業に参加させる工夫は見られた。 ○基礎力診断テストを実施(12月)したが、教科と学年が結果分析を共有し、その後の授業に生かす切れないかった。授業評価は実施したが、結果を授業に適切に反映できていない。	B	○教員全体にチャイムと同時の授業の開始の共通認識を徹底させ、確実に浸透させる。環境整備は予算を伴うことであるが、早期実現を希望する。 ○研究協議の確実な実施。または代替として評価シートの有効利用することで授業改善を図る。 ○学力の定点観測を行い教科と学年が組織的に連携し、定期的な協議を行う。現職教育を適宜実施し、授業評価結果のフィードバックを行い、授業への反映を徹底する。
3	大学等進学についても一定の成果を挙げ、就職率も8年連続してほぼ100%を達成している。しかし、年々入学者の学力は低下してきており、個々の進路実現に向けた取組意欲も低く、自主的・創造的な行動や意図的・計画的な取組が少ない。	自ら課題を発見し、必要な情報を集め、その課題を解決するという経験を解決することで、物事を考える自主的な能力を養うことができたか。	・生徒個々に応じた学力向上を図り、納得のできる進路実現を目指す ・総合学習の中で、『働く意義』や『生き方』について学び、自身の将来設計を具体化させる ・各種面談(個人・保護者・三者)を担当だけでなく、学年や進路と連携して行い、組織的に生徒の進路状況把握に努める ・社会体験やオープンキャンパス、大学の出前授業への参加機会を潤沢にし、生徒に進路を考えさせる機会を増やす	・校内実力テスト、各種補習、模擬試験等の実施 ・進路別学習を通じて、進路の知識だけでなく社会に出て活用できる技術の習得 ・担任、学年主任、就職指導員、進路学年担当との面談から、進路意識の把握 ・ネットワーク等の機関との連携を行い、卒業後のサポートと在校生へのフィードバック ・それぞれの活動の振り返りシートから、自己の進路実現に向けた取組具合を相対的に評価する	○学年・コース・生徒の進路希望に応じた補習やセミナーを実施した。1・2学年では地域の職業人の講話や2年生の大規模進路説明会への参加は、進路意識の向上に役立った。 ○民間就職については、就職指導員やハローワーク等と連携を密にすることで、希望企業への内定が得られた。公務員については、例年より希望者が少なかったが、公務員セミナー等の活用もあり、合格できた。 ○進学ではAO入試受験者が年々増加し、合格後の指導に苦慮している。4大進路希望者が大幅に減少し受験が前倒しになり、上記同様受験後の指導に苦慮した。	B	○生徒個々の進路希望を職員全体で共有するために、今年度から導入した進路カルテの更なる有効利用が必要である。 ○公務員を不合格になり、民間就職を希望する生徒の準備不足が見られた。次年度は就職指導員と連携し対応を考えたい。 ○就職希望生が増加し、進学希望の生徒の減少傾向にある。全職員が生徒への声掛けや学習の到達度合いの認識の共有を図ることで、3年間、進学意識を低下させずモチベーションを持続させたい。
4	学級減に伴い、行事や部活動の取り組みにおける意欲低下が懸念される。学校生活の活性化を図る手立てが必要である。また、様々な場面で真面目に取り組み生徒が多いものの、生徒全体としての自主的、創造的な取り組みとしてはまだまだ物足りない面がある。	○行事等を通して自ら課題を発見し解決するという経験によって、自主的に行動できる能力を養ったか。 ○個の活動から集団としての活動へと繋がる指導ができたか。	・生徒会活動の活性化のため地域や他の学校との交流に取り組む。 ・体育祭・文化祭において地域に向けて串本古座高校を発信する。 ・クラブ活動を促進し活性化に取組む。 ・防災教育を通して生徒の「自助、共助、公助」の意識を高める。 ・育友会活動の活性化を図る。	・学校行事における生徒評価の満足度70%以上 ・各クラブ活動の成績、部員数の増加につながったか ・学期に1回の防災訓練や研修の実施 ・地域や近隣中学校と連携した防災訓練の実施 ・避難路の整備、維持管理 ・地域行事等における巡視協力の要請	○日程変更はあったが、学校行事に関する生徒の満足度は高かった。また体育祭や文化祭ともに、保護者や地域の方が多数来校し、盛況であった。 ○クラブ加入率は前年度より若干下がったものの、各部の活動は活発で、特に弓道部、演劇部が全国大会に出場するなど、好成績を修めた。 ○防災スクールでの簡易スリッパ作りやバーティションを用いたプライバシー保護、避難訓練等を通して防災意識を高めることができた。	B	○生徒会をはじめ、ボランティア活動に自主的に参加する生徒が多数いる。さらに主体的な取り組みを促せる機会を増やす。 ○クラブを精選し、部員数の増加、活動の活性化を図る。 ○防災意識や危機対応能力をより高めるため、体験を主軸とした防災教育を実践する。 ○育友会との連携を深めることで学校行事や教育活動への継続的な協力を促す。

学校関係者評価	
平成 29 年 2 月 23 日 実施	学校関係者からの意見・要望・評価等
生徒数の減少が著しい当地域において、本校は串本町・古座川町の最後の砦という認識に立ち、両町との連携を密にし、地域と一体となり地域とともに歩む高校にするため「串本古座高等学校 魅力化プロジェクト」を開始した。 その一環として、本校の魅力化・活性化に向けて、様々な教育課題への対応方策等について、協議し、共通理解を深め、魅力ある学校づくりの進展に寄与することを目的とした地域協議会を7月に発足させた。協議会の委員は、役場・地域住民・OB・保護者・学校(教職員)で構成している。さらに、県立高等学校再編整備基本方針に基づき、平成29年度の入学生からグローバルコースを新設し、全国募集枠が設けられた。 このような状況の中、地域協議会を2月までに3回(1回目7/21、2回目11/21、3回目2/23)実施し、地域の声としてさまざまな提言・意見・要望が出された。また、全国募集が正式に決定してからは、近隣中学校への説明に出掛け、そのなかでも様々な意見や指摘をいただいた。主な提言等については、以下のとおり。 ○チームとしての取り組み 校内でもプロジェクト委員会を組織し活動していくが、今後はチームとしての輪を広げていく必要がある。 ○中学生の町外への流出を防ぐことが重要。その意味で、和歌山大学の推薦枠での進学等は地元への大きなアピールともなり、評価できる。 ○クラブ活動等でも高校生が中学生や小学生を教える、小中高のバリエーションがあればよい。 ○地元から外の高校へ行く生徒はどのくらいいるのか。なぜ他校へ行くのかなどを研究して参考にしてはどうか。 ○高校はやっとな地域に対して動き出したなあとという思いがある。 ○英語科・理科数がなくなった時点で進学に不安があった。田辺や新宮から逆に生徒が来るような、もっととんがったことをしたらどうか。そんな体制を作れるよう協力したい。 ○担任などが個人として学習指導をがんばっているが、組織として取り組めていない印象がある。 ○公務員志望者への串本の取り組みは高く評価している。中学生の中にも公務員になりたいから串本校舎を目指す者もいる。	